

小児科後期研修カリキュラム

【理念】

卒後初期研修修了者を対象とし、小児医療についての基礎的かつ幅広い臨床能力を修得するとともに、小児科専門医の資格を取得するための基礎を作る。

【特徴】

感染症を中心とする急性疾患や救急処置を必要とする患児に加え、長期入院の必要な慢性疾患患児（ネフローゼ症候群、慢性腎炎、紫斑病、内分泌疾患、炎症性腸疾患、心身症など）も数多く入院するため、小児科の主要疾患を効率的に経験することができる。

【一般目標】

地域中核病院小児科の一員として安心と信頼の医療を提供するために、人間性豊かな診療態度を身につけ、基礎的かつ幅広い臨床能力を修得する。

【行動目標】

1. 専門医資格取得のために定められた各分野の症例数を経験する。
2. 小児診療に必要な診断能力と治療法を修得する。
3. 小児のプライマリーケアに必要な手技と検査に習熟する。
4. 指導医や上級医に適切なタイミングでコンサルトすることができる。
5. 患児・家族と好ましい信頼関係を築くことができる。
6. チーム医療のリーダーとして他の医療従事者を指導することができる。
7. 後進の医師に対して日常的に指導・評価を行うことができる。
8. 臨床研究の基礎を学ぶ。

【方略】

1. 一般外来患者の診療を行う。
2. 専門外来で指導医の指導のもとに、心臓超音波検査、心電図や脳波の読み方などを修得する。
3. 入院患者を主治医チームの一員として担当し、診療する
4. NICU 患者の処置、診療を行う。
5. 救急および休日時間外診療を担当する。
6. 経験した症例を症例要約としてまとめ、指導医の評価を受ける。

7. 部長回診時に入院患者の症例提示をする。
8. 症例検討会（毎週火・木曜日、午後5時）で症例提示、討議をする。
9. 抄読会（毎週火曜日、症例検討会終了後）に参加し、小児科関連英語論文を読む。
10. 学会または研究会発表、論文発表を行う。

【週間スケジュール例】

	月	火	水	木	金	土
朝	前日の入院症例提示					
午前	病棟処置	病棟回診	一般外来	新生児診察 NICU	一般外来	病棟回診
午後	慢性疾患 外来	病棟当番 NICU	乳児健診	予防接種	病棟検査 部長回診	
夕刻		症例検討会 抄読会			症例検討 会	

【評価】

1. 担当症例の診療内容に関しては、毎週の症例検討会で評価する。
2. 各症例の問題点を指導医や上級医にコンサルトできたかについて3ヵ月毎に評価する。
3. 小児科専門医臨床研修手帳を活用し、自己評価する。

【別に定める事項】

1. 主治医として担当すべき入院患者の疾患分野と患者数
 先天性疾患 未熟児・新生児 呼吸器 循環器 消化器 腎・泌尿器 中枢神経 精神 内分泌 代謝・栄養 免疫・アレルギー 感染症 血液 各々2例以上
2. 目標とすべき学会または研究会発表回数 2回/年
3. 目標とすべき論文数 1編/年

【具体的達成目標】

1. 診断・治療
 - 1) 主訴、既往歴、家族歴、現病歴などについて、保護者から正確に要領よく聴取できる。
 - 2) 小児の正常な身体発育、発達を理解する。

- 3) 乳幼児健診を行なうことができる。
- 4) 小児の基本的な身体所見の把握が正確にできる。
- 5) 感染性発疹症の特徴の把握と鑑別ができる。
- 6) 緊急性の高い疾患に迅速かつ適切な対応ができる。
- 7) 入院治療が必要かどうかを判断することができる。
- 8) 主要な小児疾患について診断・治療計画を立てることができる。
- 9) 未熟児・新生児の初期治療とその後の全身管理を実践できる。
- 10) 臨床検査成績を正しく評価できる。
- 11) 画像検査（単純 X-p、CT、MRI）を読影できる。
- 12) 小児心電図の判読ができる。
- 13) 腎機能検査の意義と方法を理解する。
- 14) 正しい薬剤処方や輸液療法ができる。
- 15) 予防接種に対する正しい知識を持つ。

2. 手技・検査

- 1) 小児の静脈採血、動脈採血ができる。
- 2) 静脈注射、皮下注射、筋肉注射ができる。
- 3) 一般小児および未熟児・新生児の血管確保ができる。
- 4) 分娩立会い、出生時の蘇生ができる。
- 5) 気管内挿管を含む気道確保を正確にすることができる。
- 6) 胃洗浄ができる。
- 7) 腰椎穿刺ができる。
- 8) 骨髄穿刺ができる。
- 9) 腸重積の整復ができる。
- 10) 超音波検査（心臓、腹部、頭部）を行なうことができる。
- 11) 上部消化管造影、排尿時膀胱造影を行なうことができる。
- 12) 食物アレルギー負荷試験ができる。